

休耕田開墾に25人

ふるさと
企画舎

くき漬け原料栽培へ

紀北町海山区便ノ山の
NPO法人ふるさと企画
舎(田上至理理事長)は23

日、便ノ山の休耕田で地
元特産くき漬けの原料と
なるサトイモの品種ヤツ
ガシラを植えるため開墾
作業に取り組んだ。

環境保全やボランティア活動の活性化を目的とした県の「美し国おこし・三重」実行委員会が進めるソーシヤルレジャー事業のホームベースでも参加を呼びかけ、県内外から25人が参加した。年



くき漬け用のヤツガシラ栽培へ開墾作業に取り組む参加者(23日、紀北町海山区便ノ山で)

齢は4歳児から60歳代まで。

休耕田は種まき権兵衛の菩提寺「宝泉寺」所有の約20畝(2千平方尺)を有償で借りた。栽培は今年から始まり、別の同寺所有の3畝にヤツガシラを植えて7月から8月にかけて700kgを初収穫した。今回開墾する20畝のうち3畝で来年収穫のヤツガシラ栽培を予定している。

この日は絶好の秋晴れに恵まれた。参加者たちは雑草を草刈り機で刈り

取り、ミニバワイショベルで土を耕す作業に取り組んだ。昼食は今年収穫したヤツガシラのくき漬けと同企画舎が地元特産ブランド化に取り組んでいる銚子川米や養殖アマゴの塩焼きに舌鼓みを打った。

くき漬け栽培を担当している同企画舎の奥村美華さん(26)が地元農家からくき漬けの製法を学んだ。くき漬けはキャンブイン海山で100kg入り165円で販売。インターネットでも販売しており好評という。

田上理事長は「くき漬けや銚子川米、アマゴのブランド化が目標。来年のヤツガシラの収穫に間に合うようくき漬け加工場の建設を計画している」と話していた。